

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

汚染水の海洋放出断固反対！



現在の福島第一原子力発電所と増え続ける汚染水を含んだタンク

地元や漁協を無視した姿勢に怒

東京電力福島第一原発（福島県大熊町、双葉町）で増え続ける汚染水を浄化処理した後の水の処分について、政府は13日朝の関係閣僚会議で、原発から福島沖へ海洋放出する方針を正式に決定しました。2年後をめどに放出に着手するとしています。しかし、東京電力は柏崎刈羽原発（新潟県）の不祥事などで信頼を失っており、重要な手続きを再び政府任せにしかねません。

菅義偉首相は会議で「処分は廃炉を進めるのに避けては通れない課題だ。政府が前面に立って安全性を確保し、風評払拭にあらゆる政策を行っていく」と述べました。東京電力の小早川智明社長は会議後の取材に「方針に従い、主体性を持って適切に取り組む」と話しています。

政府の決定を受け、東京電力は放出設備の準備を始めています。原子力規制委員会の許可などを含めて放出まで2年程度かかる見通しで、処理水をためるタンクは2022年秋ごろに満杯となるため増設を検討し、放出は早ければ23年にも始まります。全国漁業協同組合連合会（全漁連）は海洋放出に「絶対反対」の立場を貫いております。

汚染水の処分方法は、トリチウムの濃度を海水で百倍以上薄め、福島第一原発で汚染されていない地下水を海に放出する際と同じ基準未満にするとした。東電は処理水の放出完了に、30年程度かかると見込んでいます。福島第一原発事故から10年。未だに事故は収束していません。政府は原発を重要な「ベースロード（基幹）電源」と位置付けており、自民党は「温室効果削減」のために原発の新設・増設を謳っています。

菅首相の強権的な行動を認めるわけにはいきません！

海洋放出する汚染水

福島第一原発の処理水1～3号機では事故で溶け落ちた核燃料（デブリ）への冷却水と、原子炉建屋内に流れ込んだ地下水や雨水が混ざり汚染水が大量に発生し、多核種除去設備（ALPS＝アルプス）で浄化してからタンクに保管。技術的に除去できない放射性物質トリチウムが含まれ、約7割は浄化が不十分でトリチウム以外の放射性物質が国の排出基準を超えて残るため、東京電力は放出前に再浄化する。再浄化し、トリチウムが残ったままの水を海に放出すると言われている。

汚染水の海洋放出断固反対！強権的な行動を許さないぞ！